

2021年3月期  
第1四半期決算報告  
(2020年8月6日)

---

 **日清食品ホールディングス株式会社**  
(2897)

# エグゼクティブサマリー

## 中期経営計画の達成と更なる成長への経営基盤強化を目指す

2021年3月期  
経営方針

国内：

- DX化を進め、不確実性の高い経営環境下でも盤石な商品供給体制で事業拡大を図る
- ブランド戦略を強化し、売上拡大と利益創出を目指す
- 即席めん以外の事業成長を図り、将来の利益の礎とする

海外：

- V字回復した米国では、戦略的優先度をもって付加価値商品の拡販を追求
- 中国、ブラジルでは安定的な成長を継続
- インド、ベトナム、インドネシアの早期黒字化を目指し、ブランドと収益力強化に取り組む

グループ全体：

- 全社一丸となって中期経営計画の達成に向かって走り続ける
- 新型コロナウイルス感染症対策も含め安全安心に最大限の注意を払いながら有事の際にも食の安定供給を維持していく

連結：増収・増益(売上収益、営業利益、親会社の所有者に帰属する四半期利益ともに第1四半期として過去最高を更新)

- 新型コロナウイルス感染症対策による巣籠り需要に対応し製品の絞り込み等で前期末に引き続き安定供給を図った

国内：増収・増益

- 即席めん事業：昨年6月に実施した価格改定の影響と新型コロナウイルス感染症対策による巣籠り需要増、拡販費抑制により増収・増益、5月中旬より巣籠り期からWITH・AFTER期に入る
- 低温事業・菓子・飲料事業においても新型コロナウイルス感染症対策による巣籠り需要増増収・増益

海外：増収・増益

- 米州地域：米国事業、ブラジル事業、メキシコ事業の好調が続き、増収・増益(ブラジル事業は為替の影響を受け円貨では減収・減益だが、現地通貨ベースでは大幅な増収・増益)
- 中国地域：増収・増益。特に大陸における増収が利益増に貢献
- アジア地域：シンガポール、タイ、インドが貢献し増収。営業利益はシンガポール、インド、ベトナムが貢献し増益。持分法による投資利益増も増益に貢献

連結全体では業績は好調

国内事業、海外事業ともに全セグメントで増収・増益(国内その他除く)

今後変化する消費者の嗜好や行動、小売りの販売方法の変更など環境の大きな変化に柔軟に対応し、全社一丸となって中期経営計画2020の目標達成に向けて邁進する

第1四半期  
の  
振り返り

第1四半期  
総括

(単位: 億円)

	2021年3月期			2020年3月期
	第1四半期	前期差異	前期比	第1四半期
売上収益	1,205	+146	+13.9%	1,058
営業利益	174	+88	+102.3%	86
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	120	+62	+108.5%	58
営業利益率	14.5%	+6.3pt	/	8.1%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益率	10.0%	+4.6pt		5.5%

## セグメント別 売上収益実績

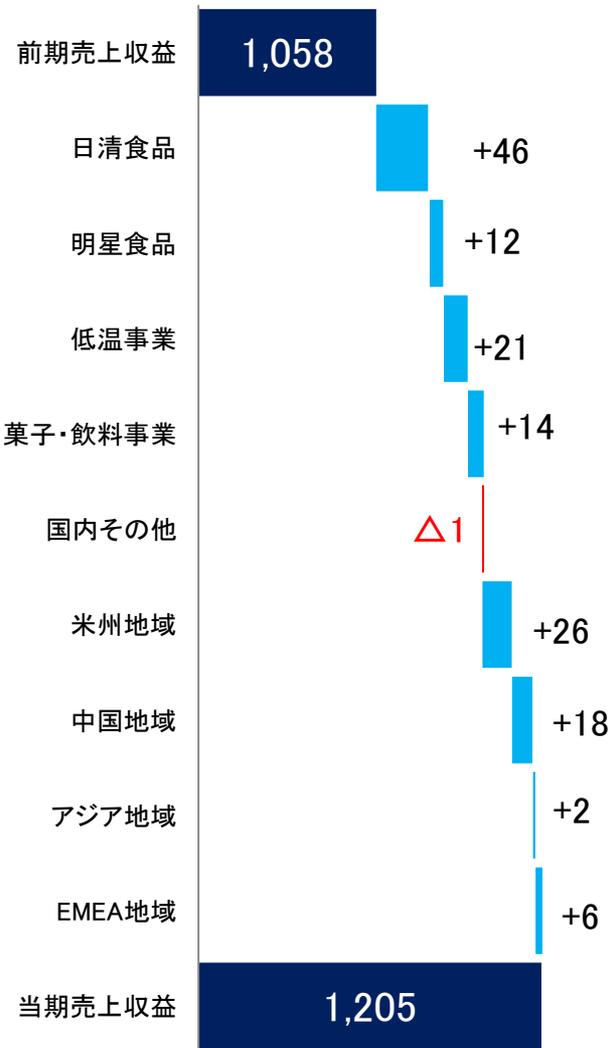
(単位:億円)

	2021年3月期			2020年3月期 第1四半期
	第1四半期	前期差異	前期比	
即席めん事業	577	+59	+11.4%	518
日清食品	480	+46	+10.7%	434
明星食品	96	+12	+15.1%	83
低温事業	157	+21	+15.7%	135
菓子・飲料事業	119	+14	+14.0%	105
国内その他	7	△1	△18.9%	9
国内 計	862	+93	+12.2%	768
米州地域	177	+26	+17.3%	151
中国地域	115	+18	+19.5%	96
アジア地域	29	+2	+7.9%	27
EMEA地域	21	+6	+40.5%	15
海外計	343	+53	+18.3%	290
連結売上収益	1,205	+146	+13.9%	1,058

※中国地域の実績は、日清食品HDの連結方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります。

# セグメント別 売上収益貢献度

(単位: 億円)



	増減	主な要因
日清食品	+46	カップめん(+6%):「カップヌードル」「どん兵衛」「U.F.O.」が堅調 袋めん(+21%):「チキンラーメン」が堅調、「ラ王」は大きく伸長 その他(+10%):「カレーメシ」をはじめライスカテゴリーが好調
明星食品	+12	カップめん(+8%):「夜店の焼そば」が堅調。「旨だし屋」をはじめオープン価格商品も好調を維持 袋めん(+43%):「チャルメラ」が伸長。減塩訴求商品の「評判屋」も好調を維持
低温事業	+21	チルド(+10%):新型コロナウイルス影響の需要拡大により、主力ブランド「行列のできる店のラーメン」「つけ麺の達人」「ラーメン屋さん」等が堅調に推移し増収 冷凍(+18%):新型コロナウイルス感染拡大による巣籠り需要を受け増収、一方で業務用は縮小
菓子・飲料事業	+14	シスコ(+21%):シリアル・菓子ともに増収 ヨーク(+11%):「ピルクル」は65mlを中心に2割増収、「十勝のむヨーグルト」はホームサイズが増収 ぼんち(+4%):「ピーナツあげ」や「ぼんち揚」は好調に推移するも、さがえ屋は店舗を中心に苦戦
国内その他	△1	
米州地域	+26	*為替影響額△28... 主にブラジルリアル安による影響 米国(+54%):新型コロナウイルス感染症による普及価格帯商品の需要増とプレミアム商品の好調により増収 メキシコ(+34%):「CUP NOODLES」が大型小売店やTTチャネルでの販売が好調で増収 ブラジル(+18%):新型コロナウイルス感染症による需要増で販売拡大し増収
中国地域	+18	*為替影響額△4 香港(+9%):家庭内喫食の増加により即席めん事業は堅調 大陸(+36%):「カップヌードル」、「出前一丁」の販売ボリューム増により増収。上海東峰(卸ビジネス)営業開始分含む
アジア地域	+2	*為替影響額△1 売上額が多い順 タイ:増収、インド:増収、シンガポール:増収、インドネシア:減収、ベトナム:増収
EMEA地域	+6	*為替影響額△0 欧州地域:「CUP NOODLES」「Soba」「Demae Ramen」ブランドが好調に推移し、増収
合計	+146	*為替影響額△35

■ プラス要素 ■ マイナス要素

※日清食品、明星食品の( )内の前期比は、各カテゴリーのメーカー出荷額ベースの前期比でIFRS売上収益の前期比ではありません。  
※海外のコメント、前年比はすべて現地通貨ベースの売上収益に基づいて記載しております。

## セグメント別 営業利益実績

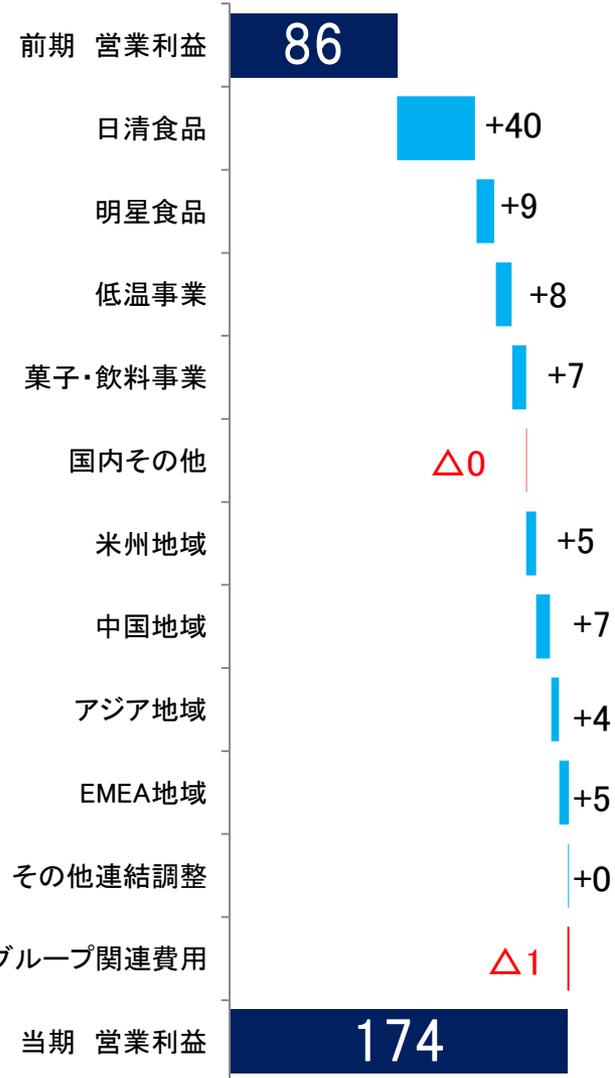
(単位: 億円)

	2021年3月期			2020年3月期
	第1四半期	前期差異	前期比	第1四半期
即席めん事業	103	+50	+95.8%	52
日清食品	87	+40	+87.0%	46
明星食品	16	+9	+162.7%	6
低温事業	15	+8	+116.6%	7
菓子・飲料事業	13	+7	+123.5%	5
国内その他	2	△0	△8.8%	2
国内計	134	+66	+96.5%	68
米州地域	19	+5	+36.8%	13
中国地域	16	+7	+91.6%	8
アジア地域	12	+4	+49.0%	8
EMEA地域	7	+5	+347.2%	1
海外計	54	+22	+69.6%	32
その他連結調整	△0	+0	-	△1
グループ関連費用	△14	△1	-	△13
連結営業利益	174	+88	+102.3%	86

※中国地域の実績は、日清食品HDの連結方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります。

## セグメント別 営業利益貢献度

(単位:億円)



	増減	主な要因
日清食品	+40	+ 価格改定等による売上増、販売費の未使用、一般管理費減 - 関西工場減価償却費、物流費等の増加
明星食品	+9	販売数量増加による増収と新型コロナの影響で広告費・促進費等の投入時期を見直したことによる費用減少
低温事業	+8	チルド: 販売数増により増益 冷凍: 増収効果と生産性の向上などにより増益
菓子・飲料事業	+7	シスコ: 売上増により、シリアルも菓子も増益 ヨーク: 売上増及び固定費の減少により増益 ぼんち: ぼんち製品の売上増により増益 持分法による投資損益: 減益
国内その他	△0	
米州地域	+5	*為替影響額△4 … 主にブラジルリアル安による影響 米国: 普及価格帯商品の販売数量増とプレミアム商品の好調により増益 メキシコ: 販売数量増と値上げ効果でペソ安による原価上昇を吸収し増益 ブラジル: 販売数量増及び値上げ効果が利益に貢献
中国地域	+7	*為替影響額△0 香港: 売上増と売上増に伴うコスト低減により大幅増益 大陸: 主力商品が堅調で増益
アジア地域	+4	*為替影響額△0 … 利益額が多い順(持分法適用会社除く) タイ: 増益、シンガポール: 増益、インドネシア: 増益、ベトナム: 赤字縮小 インド: 赤字縮小 持分法による投資損益: 増益
EMEA地域	+5	*為替影響額△0 欧州: 増益 トルコ: 事業清算 持分法による投資損益: 増益
調整額	△0	
合計	+88	*為替影響額△5

■ プラス要素 ■ マイナス要素

※海外のコメントはすべて現地通貨ベースに基づいて記載しております。

# 営業利益の主な差異要因(非経常損益の影響)

(単位:億円)

	2021年3月期 第1四半期	2020年3月期 第1四半期	営業利益 差異	非経常損益 差異	非経常の主な内容
日清食品	87	46	+40	△0	
明星食品	16	6	+9	+0	
低温事業	15	7	+8	△1	(19)関係会社の清算による影響+4 (20)関係会社の清算による影響+3
菓子・飲料事業	13	5	+7	+0	
国内その他	2	2	△0	△0	
国内計	134	68	+66	△2	
米州地域	19	13	+5	△0	
中国地域	16	8	+7	+0	
アジア地域	12	8	+4	+0	
EMEA地域	7	1	+5	△0	
海外計	54	32	+22	+0	
その他連結調整	△0	△1	+0	+0	
グループ関連費用	△14	△13	△1	-	
連結営業利益	174	86	+88	△2	

※「非経常損益の主な内容」に記載の数値について: +益、△損

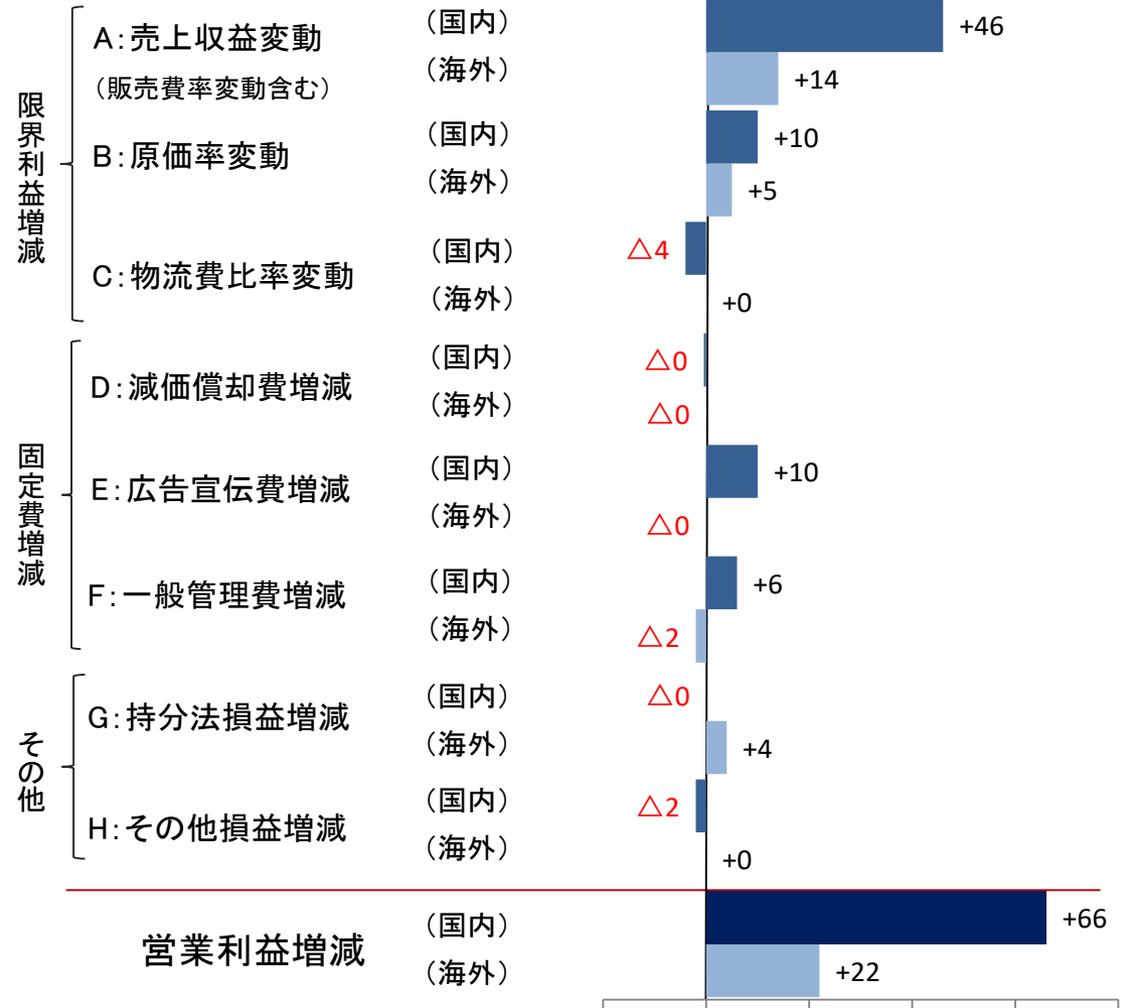
# 営業利益 増減分析 / 連結 (国内・海外)

## 前期比較

(単位: 億円)

減益要因

増益要因



△20 +0 +20 +40 +60 +80

## 【国内】

- 売上収益変動  
+ 価格改定の影響、販売増、販売費率の良化 等
- 原価率変動  
+ 原材料費の減少、ブランドミックスの影響 等
- 物流費比率変動  
- 物流費増 等
- 減価償却費増減  
- 関西工場稼働 等
- 広告宣伝費増減  
+ 広告宣伝費の期ズレ 等
- 一般管理費増減  
+ コスト見直しによる費用減、グループ各社管理費減 等
- その他損益増減  
- 前期、関係会社の清算による影響(4) 等  
+ 当期、関係会社の清算による影響(3) 等

## 【海外】

- 売上収益変動  
+ 米州地域における価格改定の影響、  
米州地域及び中国地域における販売増 等
- 原価率変動  
+ 中国地域における商品ミックスの影響や原材料費減 等
- 一般管理費増減  
- 中国地域の管理費増 等

※ 連結全体では、別途「調整額」の差異が発生しますが、第1四半期の差異は軽微です。

※ 価格改定の影響をより実態に即して表現するために、2020年3月期第2四半期より計算方法を変更しています。

※ 限界利益分析は、売上収益に販売費控除額を足し戻した額を元に算定しています。

【増減要因の算出法】 ①限界利益(A,B,C)=(当期の売上収益 × 前期の売上収益比率)-当期費用

②固定費(D,E,F)=前期費用-当期費用

③その他(G,H) = 前期実績 - 当期実績

この資料に掲載しております当社の計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、「市場における価格競争の激化」、「事業環境をとりまく経済動向の変動」、「為替の変動」、「資本市場における相場的大幅な変動」他、様々なリスク及び不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

- このプレゼンテーション資料は、PDF形式で当社ウェブサイト「決算短信・補足資料・決算説明会関連資料」に掲載しています。  
<https://www.nissin.com/jp/ir/library/>
- 当該資料の金額は、千円単位で算出し、億円単位未満を切捨て表示しており、内訳と合計金額等が合致しない場合があります。
- 当該資料の決算期は原則として、2020年4月1日～2021年3月31日を「2021年3月期」とします。
- 海外の関連会社の収益・費用は累計期間の期中平均為替レートを適用しています。
- 中国地域の実績は、日清食品HDの連結方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります。また、中国地域の事業計画は日清食品HDが独自に設定した目標です。



**日清食品ホールディングス株式会社**